

バージニア・ウルフの『オーランド』

2 COMME des GARÇONS

19世紀からの歴史を持つ劇場でショー

5 SIMONE ROCHA

モーツァルトに思いをよせて

3 VIVIENNE WESTWOOD

「ベル・エポック」ももう一度

4 LOUIS VUITTON

ブランド創始時代を再び振り返る

6 BURBERRY

ベルサイユ宮殿の優雅なひととき

1 THOM BROWNE

ヴィクトリアを甘くアップデート

7 ANNA SUI

## 世紀を超えたインスピレーション

今季目立ったのが、100年以上前の時代に創造の翼を広げたメソンの数々。過去を振り返りながら、未来を見据えるまなざしに注目

### 「ジェンダーレス」の次の選択肢としての装飾主義

中野香織 (服飾史家)

長らく「ジェンダーレス」というキーワードがモードファッション業界で取り沙汰されてきましたが、今、人々の気分は次のフェーズに移行しているのではないかと思います。バーバリーやアナスイがキーワードに掲げた「ヴィクトリアン」(1837年～1901年)の時代は、ファッションにおいてもっとも性差がくっきりしている時代。絞ったウエストラインに代表される女らしさの追求、たっぷり生地を使ったドレス、職人技が光るレース使用など。先日対談した10代のある男性が「ウェディングドレスを着てみたい」と言っていたのですが、何を着てもいいこの時代だからこそ、多様性のなかの選択肢としてデコラティブなこのトレンドが浮上してきたのではないのでしょうか。ちなみに、この装飾主義のトレンドにおいて試されるのが、美しい服を作るという意味においてのブランドの技術力だと思います。

ルイ・ヴィトンが提唱した「ベル・エポック」は「優雅な時代」の意。19世紀末から第一次世界大戦勃発までを指します。ここから不穏なときに入っていくというひとときの不安も、もしかしたら現代と通じるところがあるのかもしれない。

#### profile

なかの かわり●服飾史家として執筆、講演を行うほか、企業の顧問を務める。昭和女子大学客員教授。著書に『ロイヤルスタイル 英国王室ファッション史』(吉川弘文館)、『モードとエロスと資本』(集英社新書)など多数。

1 ランウェイがひととき、ベルサイユのプチ・トリアノンに。トロンプイユの手法でクラシックなドレスを構築した

2 「オーランド」を無邪気に掲げる流れはメソンの引き継ぎ。ウィーンの国立劇場で上演される同名の舞台の衣装を担当される

3 「ロック・ミー・アマデウス」をキーワードに挙げた。フィナーレにはパラソルを構えたドレスのペラが登場

4 「ベル・エポック」をベースに、当時を代表する舞台女優、サラ・ベルナルもインスピレーション源のひとつ

5 1875年にオープンした劇場が会場でテーマはアルランドのレン・ボーイズ。妻をまとい訪ねる家々や情景から無邪気を得た

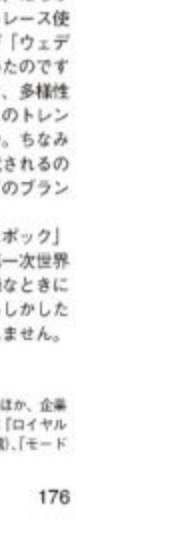
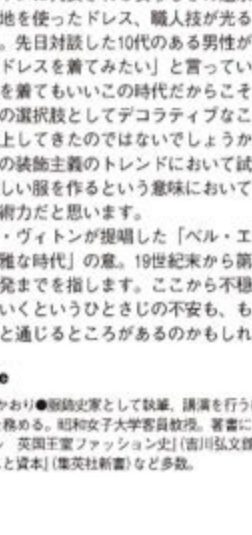
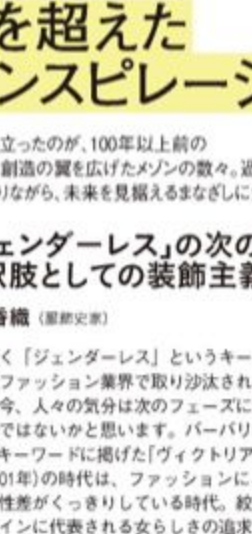
6 ヴィクトリア朝時代に会社を設立したトーマス・バーバリー。家紋に込められた意匠にちなみ、「I AM A UNICORN」という文言を胸元に

7 イタリアの衣装デザイナー、リリス・ノビリアスやパステルカラーのお菓子などをヒントにヴィクトリア朝時代のデザインをドリーミーに甘くアップデート

8 1900年代のウィーンにおけるアールヌーボーに触発され、制しゅうで女性の裸体と白鳥を結ぶフェミニニティを表現

9 現代の複雑さに対する解毒剤として「スタイル」を追求したプラダ。各年代を融合しながら、根拠に流れるのは歴史的な女性が解放された1920年代のシルエツト

10 ハリウッドの無声映画で女優として活躍し写真家となったティナ・モドッティ。彼女が行き着いたメキシコの色彩と構図とするヴィクトリアンスタイルを融合させて



メキシコで芸術と政治に身を捧げた女性を着想に

10 ERDEM

女性を解放する20年代スタイル

9 PRADA

アールヌーボーに触発される

8 JIL SANDER